

せいしょ ふくいんしよ
《聖書》ルカによる福音書 12:13-21

せいしょ たくわ おろ かんが
聖書では蓄えることは愚かなことと考

じゅうぶん いち き てい
十分の一の規定

しき に
えられています。しかし、四季のある日
ほん ふゆ そな たくわ しゅうかん
本では冬に備えて蓄える習慣があります。

き みんすうき しん
レビ記27:30-33、民数記18:21-32、申
めいき しゅうかく じゅうぶん いち かん
命記14:22-29には、収穫の十分の一に関
きてい つた
する規定が伝えられています。

わたし かんが
私たちはどのように考えればよいのでし
ようか。

きてい もくてき つね しゅ かみ
この規定の目的は、常に主なる神をお
また ゆた
それることを学ぶためにあります。豊か
みの とち たいよう あめ
な実りをも^Vらす土地も、太陽も雨もすべ
た
し ぜん めぐ かみ あた
ての自然の恵みは神から与えられたこと
おも お かみ かんしゃ ところ
を思い起こし、神に感謝する心をやしな
うのです。

せいしょ なか たくわ かんが
聖書の中での蓄えについて考えるのに
たいせつ か しよ き じ しゅつ
大切な個所はマナの記事です。出エジブ
き しゅう ひとびと にも ひつよう
ト記16章によると、人々は1日に必要な
ぶん あつ たくわ
分を集めることができたのです。蓄えを
ゆる あんそくび
許されたのは安息日のためだけでした。

ささ しぎょう わ あ
捧げられたものは嗣業の割り当てのな
びと せいかつ いじひ また まつ
いレビ人の生活の維持費のため、又、祭
とき ほうのうしゃ か ぞく しゅくり
りの時に奉納者とその家族があずかる食
じ きりゅうしゃ こじ かふ
事のため、さらに、寄留者・孤児・寡婦
もち しんめいき
のために用いられていました。申命記で
ねんめ まち なか たくわ
は、3年目ごとに町の中に蓄えるように
さだ
定めています。

きが そな しゅくもつ たくわ そう
飢饉に備えて食物を蓄えることは、創
せいき き じ み
世記41:37-56のヨセフの記事に見られま
すが
す。ヨセフのおかげでヤコブたちは飢饉
あいだ のが
の間、エジプトに逃れることができたの
です。

こ
しかし、はっきりしていることは、個
じん よ ぶん たくわ おろ
人のために余分なものを蓄えるのは愚か
だということです。